2025年12月27日(土) 山陽新聞 [社会]

㉔ 外見変化の患者ケア拡大

抗がん剤の副作用による脱毛や肌荒れといった外見（アピアランス）変化に心を痛めた患者を支える「アピアランスケア」が岡山県内でも広がっている。川崎医科大付属病院（倉敷市松島）乳腺甲状腺外科の平成人教授は「安心して治療に臨み、社会復帰への不安を軽減させるサポートを強化したい」としている。

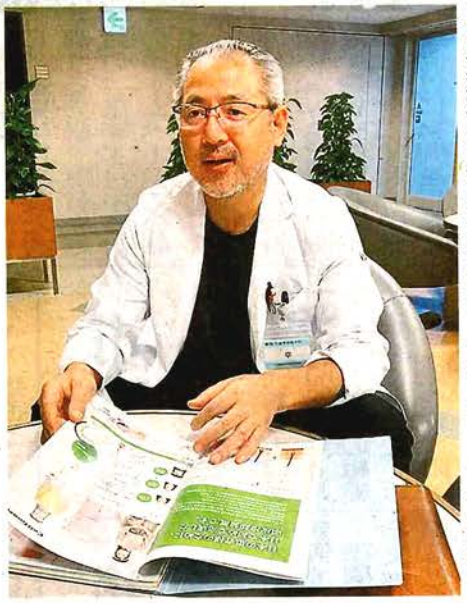
外見変化の患者ケア拡大

抗がん剤の副作用による脱毛や肌荒れといった外見（アピアランス）変化に心を痛めた患者を支える「アピアランスケア」が岡山県内でも広がっている。今夏から専門外来を試行し、12月に脱毛を抑える頭皮冷却装置を導入した川崎医科大付属病院（倉敷市松島）乳腺甲状腺外科の平成人教授は「安心して治療に臨み、社会復帰への不安を軽減させるサポートを強化したい」としている。ケアの大切さや内容を聞いた。

（水嶋佑香）

抗がん剤副作用で脱毛、肌荒れ

岡山県内 専門外来や助成制度



アピアランスケアの重要性を語る平教授

―2023年に閣議決定した国の「がん対策推進基本計画」概要版にアピアランスケアの重要性が盛り込まれてい る。

外見の変化は「人に会いたくない」「仕事に戻るのが不安」といった心の負担につながり、日常生活に大きな影響を与えている。医療の進歩で治療しながら社会生活を送るがん患者が増加しており、サポートの重要性が高まっている。

―川崎医科大付属病院の取り組みは。

抗がん剤治療を受けている患者を対象に専門外来を設け、医師や看護師がウィッグ（かつら）購入の相談に乗ったり、メークや爪のケアのアドバイスをしたりしている。しみに効く薬や保湿クリームを紹介することもある。頭の脱毛を防ぐ装置も導入した。頭皮を冷やして毛細血管を収縮させ、届く抗がん剤を減らす仕組みで、希望者には薬の投与前後に専用キャップを着けてもらう。

―このほか、県内ではどのようなことが行われているか。

おおもと病院（岡山市）で脱毛を防ぐ装置が運用されているほか、各病院の外来などでも少しずつケアが進んでいると聞く。ウィッグや乳房切除に対処するための胸部補整具の購入助成制度を設ける自治体も増えてきており、例えば倉敷市では購入費用の2分の1が助成される。

―アピアランスケア強化への思いは。

外見変化に悩む乳がん患者をたくさん診てきて、医療者は病気の治療だけでなく、もっと患者の心理面や社会生活に目を向けなければいけないとの思いを強くした。海外ではQOL（生活の質）向上が生存率向上につながるとの研究結果も出ている。患者の笑顔と自信を支える医療を広げていきたい。